

お祖師さまを巡る人々

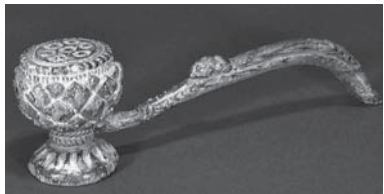
第12回



高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

前回は「池上兄弟」が、いろんなことがあったけど力を合わせてお父さんの池上康光を御題目のご信者にしたお話だったね。今回は「池上兄弟」が、お祖師さま（高祖日蓮大士）のご奉公や暮らしを助けた「外護」（仏道修行をする人に、修行に必要なものを差し上げ、安心して修行が出来るようにすること）のお話をするね。

祖師さまの身延山でのご奉公や生活が、少しでも楽しくなるようにと、「外護」のご奉公にとっても熱心に励んだんだね。本当に立派な家族だね。



木彫柄香炉 日蓮聖人御持物
池上宗仲の作と伝わる。木彫のため実際に香を焚くことは出来ず、装飾具として用いられたものと思われる（大田区文化財・池上本門寺蔵）

池上兄弟②

【池上兄弟】は、お祖師さまがご晩年（年老いてからの時期）の八年四カ月を過ごされた身延山（山梨県）に、いろんな品物（人が使ったり食べたりするもの）やお金をご供養（僧などに物を差し上げること）されているんだよ。

お祖師さまは、佐渡島（新潟県）でのご苦労や身延山のきびしい寒さで、胃や腸が弱くなり痩せ病（やせていく）、下痢（お腹をくだす）などをされるようになるんだ。そこで、【池上兄弟】は、お祖師さまのお体が冷えないようにと、綿のたくさん入った小袖（きもの）や、帽子（頭巾・頭や顔をおおうもの）を送られるんだよ。

また、少しでもお体が暖まるようにと聖人（お酒）を。そして、味文字（みそ）やその当時とても貴重（めずらしい）で体に



お祖師さまが池上に到着された時、宗仲がご供養として出した「ひきずり豆腐」。お出汁の中に焼き豆腐を入れ、その上に黒ゴマをかけたもの。この「ひきずり豆腐」をお祖師さまは好んで食べたという

良いと言われていた生和布（生のワカメ）も届けられているんだね。

お祖師さまは、お礼のお手紙で「お腹の具合がちょうどよくなった時にお味噌をいただき、それを食べたら一層（ますます）元氣になりましたよ」と、ていねいなお返事をされているんだ。それから生和布を初めて食べられたようで「かうじん（幸甚・非常にありがたいです）かうじん」と、とても感謝されているんだね。

兄弟のほかにも、兄の【宗仲】のお嫁さんは、お寺の御宝前に【銅の仏器】（お供え物を盛る入れ物）を「有志（お寺にお金や物を進んで差し上げること）」されているんだよ。



木造日蓮聖人坐像
（重要文化財・池上本門寺蔵）
このお像はお祖師さまの7回忌の正応元年（1288）6月に造立された。胎内にはお祖師さまの頂骨をおさめた銅筒が収められている。その銅筒には大別当・日朗（六老僧）、大施主・宗仲、清原氏女（宗仲夫婦）の文字が刻まれている

【池上兄弟】やその家族の人たちは、お



池上宗仲寄進の供物台
（大坊池上本行寺蔵）
宗仲が寄進したと言われる供物台（黒枠の写真）。お祖師さまの涅槃図の中にも描かれている（白丸で囲んだ物）

弘安五年（二二八二）十月十三日、お祖師さまは、兄の【宗仲】の邸（家）で、ご入滅（お亡くなりになる）されたんだ。（平成三十一年二月号の佛立新聞「お祖師さまを巡る物語」を読んでね）
お祖師さまのお葬式では、兄の【宗仲】は幡（旗・のぼり）を持ち、弟の【宗長】は御棺（亡くなった人を納める箱）の左側で太刀（刀）を持って、葬送の行列（亡くなった人と最後の別れをして火葬場や墓地に送り出すこと）に参加されたんだよ。
兄の【宗仲】は、自分の土地・邸をご有志し、ここにお寺を建てたんだね。これが今の【池上本門寺】なんだ。
いろんなことがあっても、決して負けることなく、力を合わせてご信心に励んだ【池上兄弟】。私たちも【池上兄弟】をお手本にご信心に頑張っって行こうね。